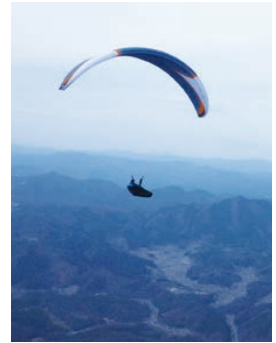


大空に夢を乗せて、世界大会で活躍する日東精工社員をご紹介します

2016年8月、いよいよオリンピックが開幕。ブラジル・リオ、そしてその4年後には東京でも開催され、スポーツ関連の話題は今後、更にヒートアップしていくことでしょう。今号のニュースレターは通常の業務に加え、スポーツの世界でも活躍する当社日東精工社員・関係者をご紹介します。



右上と左の写真は日東精工、産機事業部で電気設計を担当している岩崎拓夫です。スカイスポーツ・パラグライダーの世界では、2015年のランキングで日本2位。これまで数々の大会で優勝

経験もあり、先月、6月4日から11日までイタリアで開催されたワールドカップにも参戦してきました。

パラグライダーの魅力を知ると「高度数千メートルの空を何時間も動力なしで飛び続けられること。それに地形や雲の動きを感じて自然の中で生かされている実感が得られます」と目を輝かせて話してくれます。パラグライダーでは風速や風向きなど瞬時の修正力が試され、世界の強豪との対戦でメンタルも鍛えられ、それが仕事にもプラスになっているようです。

大島将樹(制御システム事業部 東京販売課・左)は卓球選手として学生時代に京都府北部でナンバー1となった実力者ですが、弟の祐哉さんも同じ卓球選手で現在世界32位(日本人4番目)にランキング。

惜しくも今回のリオオリンピックではリザーブにまわりましたが、世界大会などでは常に活躍、



大島祐哉選手

今年3月開催「世界卓球2016マレーシア」では、テレビでイケメン選手として取り上げられ大人気でした。「自分の中学3連覇を阻止したのが弟でした。小さい頃は大人に交じって兄弟で日東精工体育館で練習をしていました」(大島将樹)。

またファスナー事業部東京販売課所属、新庄亮太(左)



2012年には兄弟揃って箱根駅伝に

のふたりの弟・浩太さん

(NTT西日本)と翔太さん(Honda)は、中央大学時代は箱根駅伝に出場、現在は所属チームは違いますが、ともに長距離・マラソンで東京オリンピックを目指しています。もちろん兄の新庄亮太も、弟に負けじと?最近横浜で開催されたロードレースに出場し、優勝。趣味として陸上を楽しんでいます。

そして右の京都新聞(2016年6月20日付)に大きく掲載されているのが、ファスナー事業部品質管理課 樋口深司の長男、優人くんです。日本人として初めて10秒を切るかが注目される桐生祥秀選手(東洋大)の出身高、洛南高



校で活躍しています。中学記録では桐生選手を上まわり、当時の中学生の記録を塗り替え、NHKの『めざせ2020年のオリンピック』という人気番組でメダリストの朝原宣治選手に見いだされた期待の星。ケガで長期離脱の辛い時期もありましたが復調し、同じく東京オリンピックを目指しています。

人口3万人ほどの地方都市、綾部に本社をおく会社としては、日東精工社員ならびに関係者の「スポーツ活躍度」「注目度」は高いといえるでしょう。

会社としてもスポーツの大切さについては十分に理解し、野球、陸上競技、卓球、バスケットボールなど社員のクラブ活動を、専用自社体育館を設けるなどして支援しています。昨年は社内運動会を復活

させるなど、社員の健康づくりをサポートしており、毎年11月に綾部市が主催する「綾部市民駅伝」にも複数チームが参加するなど、スポーツを通じた地域交流にも貢献しています。



また肉体、身体が主役のスポーツですが、道具の良し悪しが成績に影響する競技も多く、どんなスポーツでも直接、あるいは間接的に当社の基幹事業であるねじ（締結）や計測・検査が関わっていることは間違いありません。今後も当社、日東精工では技術や製品、あるいは人財を通して、スポーツの世界にコミットしていきます。

われら NITTO'sグループ

東洋圧造

自動車部品(太モノ)供給で安全をサポートしています



東洋圧造は群馬県前橋市に本社をおく部品メーカーで、グループ内で〈太モノ〉と呼ばれる呼び径6～20ミリのボルトやリ

ベット、特殊部品をメインに扱っています。

〈太モノ〉を扱う同業他社は少なくありませんが、自社で調質炉を整備し焼入れまで一貫加工メーカーであることが同社の強みになっています。また更に、2007年に日東精工の連結子会社となったことで、日東精工グループの一員として、顧客ニーズや市場動向を共有し技術連携できることなども、新たな大きな武器となっています。親会社である日東精工はファスナー（工業用ねじ）分野において、とくに精密ねじや極小ねじの製造販売でトップシェアを誇りますが、〈太モノ〉分野を、子会社の東洋圧造が補完しているわけです。

1957年の創業以来、現在に至るまで、東洋圧造の事業の9割が自動車用途（残りは住宅関係など）。日本国内のほとんどの自動車メーカーの重要保安部品

に、当社の製品が多数採用されています。東洋圧造の特殊部品が、車の安全を支えていると言っても過言ではないのです。

自動車業界から要求される高い品質水準には、これまでもカメラによる画像選別機で対応してきましたが、今年中に、次世代画像選別機を導入し、より精度を高めていく予定。この次世代画像選別機は、従来複数のカメラで判定していたものを、1台で色、寸法、バリなどを選別し作業工程を減らして、省スペース化にも貢献できるスグレもの。自社用途だけでなく、日東精工制御システム事業部と連携し、製品化（一般販売すること）も視野に入れています。

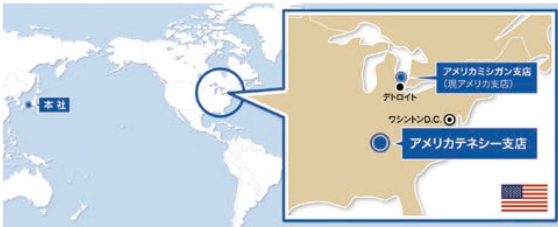


代表取締役 河野修治。1979年日東精工入社。産機事業部東京販売課に配属され、産機販売部長、大阪・名古屋支店長を経て2013年10月に東洋圧造専務取締役役に就任。2014年2月から現職。「これまで東洋圧造へは扱い製品の関係でファスナー事業部出身者が派遣されることが多く、当初は戸惑いがありました。でも、産機事業で培った自分の電気技術、機械技術が設備保全や組立自動化ラインの導入に生かすことができ、現場は楽しいです」と河野社長。プライベートでは数十年ぶりに趣味であるクラシックギターを復活。コミュニケーションツールとして、社員へのお披露目もそう遠い先ではない模様。

<http://www.toatsu.co.jp/>

「アメリカテネシー支店」を開設 グローバル展開を加速化

アメリカにおける自動車産業の好景気を背景に、産機事業（自動組立機械）が好調に推移しています。当社ではすでに中西部ミシガン州にアメリカ支店を置いていますが、自動車産業の生産拠点の集積化が進む南部に「お客様満足度120%」の観点から、第2の拠点として「アメリカテネシー支店」を開設、6月6日に営業を開始しました。南部エリアでの積極的な新規開拓を進めてグローバル展開を加速します。



中国 昆山に世界のトップが集結 CIEスマート製造展に出展しました

5月19日から21日まで、中国初の国務院の承認を受けた国家レベルの専門輸入取引プラットフォーム「中国ブランド産品輸入交易会(CIE)2016『スマート製造展』」が、昆山で開催され、世界のトップ企業・業界リーディング企業が出展しました。

当グループからは工業用ファスナーや自動組立機械を現地対応している「日東精密螺絲工業（NPS 中国 浙江）」が出展。本社からも説明員として応援にかけつけ、「締結・組立・計測検査」のトータルソリューションをプレゼンテーションしました。今後もこういった国内外の展示会で新しい情報を得て、ニーズを掘り起こし、よりグローバル化を進めていきます。



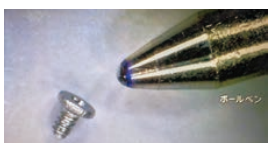
NHKの子ども教育番組「シャキーン!」で 次世代へ「ねじの魅力」を伝える!?

6月9日にNHK Eテレの子ども教育番組「シャキーン!」で、ねじの魅力が取り上げられ、当社の極小ねじなどが紹介されました。

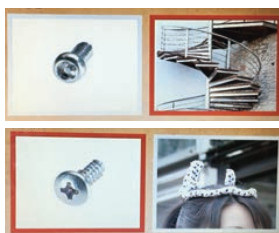
番組の女性ディレクターが事前打ち合わせ時にねじ見本ケースをご覧になり「まるで宝石箱ですね」と感激・感嘆されていました。当社では、これからもねじ業界だけでなく広く一般の方、次世代に、ねじの大切さを伝えていきたいと願っています。



©NHK/シャキーン!



6月9日7:00から放映された「シャキーン!」では、ねじのキャラクターが登場。当社の極小ねじがいろいろな形で楽しく紹介されました。



まだまだ話題継続中 『人生の「ねじ」を巻く77の教え』

年間数万点もの書籍が発行され、なかには書店に並ばぬままに返本されるものも多いなかで、当社の人財教育をまとめた『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）は、当社の役員や企業活動が度々メディアなどで取り上げられることもあり、発売後2年が経過した今も堅調に売れ続けています。

また6月1日の「ねじの日」に向けてフェアを行ったこともあり、京都の大垣書店ではビジネス部門で1位にランキングされました（5月1日～5月30日）。海外翻訳版（台湾版）についても7月1日に発売。また、昨年はこの書籍の売上印税をもとに、綾部市図書館にポプラ社の児童書を寄贈しましたが、本年度も同様の計画を立てています。



15秒の沈黙を共有しよう

〜待つことの大切さ〜

話をしているとき、ふとした拍子にシーンとした沈黙が訪れることがあるでしょう。こんなとき、とりあえず何かを口にしようとしませんか。ほんの短い時間なのですが、この沈黙の時間が、待てなくなる経験をおもちでしょう。しかし、沈黙も大事。この時間を待てないのならば、いいアドバイス役はつとまりません。

たとえば、助言しながら質問を投げかけるときがあります。「この点について、君はどう思う？ あなたの考えを聞かせてほしい」

などと問いかけたあと、数秒も間をおかず、次の声をかけてしまいがちです。

「なんにも考えてないの？」
「質問がむずかしかった？」

などと、矢継ぎ早に声をかける人が多いのです。ただこれでは、いくらなんでも相手が考える間はありません。ついでとまりのないこ



「人生の「ねじ」を巻く77の教え」(ポプラ社)は当社オリジナル教則本を一般向けに再編集したものの書籍に掲載していないものや重複しても更新していくべきものなどを随時ここでご紹介していきます。

とをしゃべってしまっています。そして、返事般的を射ていないと怒鳴られるというパターンは最悪です。ある程度の「沈黙」を効果的に共有する余裕がほしいものです。質問したあとに、
「ゆつくり考えてください。まともまで黙っていますから」
と言えば、相手はほっとするでしょう。こう言うっておけば、沈黙が妙な緊張を呼ぶことはありません。沈黙の共有は、アドバイスが浸透していく時間と考えてください。この数秒の沈黙を待てない人が多いのです。
念のため、いま、時計の秒針をみながら15秒黙ってみてください。この長さの価値が身にしてみえてわかってくると思います。

(経営コンサルタント・蒲田春樹)



アキノ比元大統領が賞賛、綾部出身の司祭

ねじのある街・あやべの魅力

フィリピンの赤ひげと呼ばれ、当地で多くの人に愛された日本人がいました。2010年に76歳で亡くなるまでおよそ40年の間、フィリピンを中心にアジアで活動し、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサとも親交があった西本至神父です。

『よあけの神父』『たそがれの神父』といった著書がありますが、本の帯にコラソン・アキノ元大統領からの推薦文が掲載されるほど、その活動は高く評価され、日比交流に貢献した方です。じつは、この西本神父の出身

は、日東精工本社がある綾部市。綾部高校OBで、著書のなかで、綾部での出会いや体験などが随所に綴られています。

人を育て、人と人をつなげ皆の幸せを希求する、そして視野広く、グローバルに活躍…、西本神父の足跡はまさに当社の理念に重なるものがあります。この理念を今後も大事にしていきたいと改めて心するものです。



ねじ大好き！ コラム

大正から昭和にかけて活躍した画家に、柳瀬正夢(やなせまさむ)がいます。油彩だけでなく、小説の挿絵、新聞漫画、本の装丁、美術批評と幅広い分野で才能を開花させ、戦前の時代の閉塞感のなかで、正直に一本筋の通った生き方をし、プロレタリアの騎手という側面をもつ画家です。

その柳瀬正夢、別名「ねじ釘の画家」とも呼ばれました。ねじを題材にしたのではなく「自分はこの世でねじ釘の役割を果たしたい」という考えから、作品に入れる署名のかわりに、ねじのマークを使ったからです。また愛用の上着の裏には、ねじをデザインした小布を縫いつけていたそうです。没後七十余年、実際どれだけの思いがあったかを推し量ることは難しいですが、ねじを自分の生き方に重ねた画家がいたという事実だけでもうれしいですね。



岩波書店から柳瀬正夢の評伝「ねじ釘の如く」が発行されている